



eisu group

山本 千秋 代表

eisu groupが堅実に成長している。今年の夏期講習でも小・中学生部門では外部生の申し込みが対昨年比130%以上、年間受講者数も昨年同日比を超えた。高校生部門でも着々と売上を拡大し、年々更新する大学合格実績をさらにアップすべく積極的な手が打たれている。少子化が進行し、塾経営に逆風が吹きがちな中、eisu groupの堅実な成長にはどのような秘密があるのだろうか。

新年度に向けてのビジョンも含めて、eisu groupの山本千秋代表に取材した。

子どもたちにも明るい未来展望を描く

それが私塾の使命

「ハイブリッド指導システム」と「イベント」が成功の鍵

— eisu groupが堅実に成長しているとの話を耳にしました。どのような部門が伸びているのでしょうか。

三重県内の小中部、高校部

ともに健闘しています。特に小中部はここ数年、一所懸命頑張っているのになかなか努力が結果として表れない状況が続いていましたが、ここに至ってようやく数字が動き始めてきたように感じます。東京都東部のniceでも夏期講習の外部生申し込みが対昨年比一八〇%で、これも手応えが例年と違っています。

課題はまだ多いです。社員の頑張りや結果として見えてきたことに嬉しさを

感じますね。社員が将来を見据えながら、腐らず、粘り強く顧客に向かい合ってきた、その継続的努力が何より重要なのだと思います。

— しかし、そこにはきっと様々な戦略や戦術が活かされてきたのではないのでしょうか。例えば本年度から導入した「ハイブリッド指導システム」はいかがですか。

小中部はハイブリッド指導システムを本格的に導入してからまだ一年経っていませんので、結果を云々するのは時期尚早だと思います。ただ成績向上や学習意欲が高まったなどの喜びの声が生徒さんや保護者様から続々と寄せられて

きており、とても頼もしいと思っています。ハイブリッド指導システムは、ティーチング(知識教授)、コーチング(一人ひとりに対するケア)、そしてセルフトレーニング(自立的な反復演習)を生徒主体の視点でハイブリッド(混成)する指導ですが、これを通じて「教室でうまく授業をすればいい」という固定観念からの脱却が促され、「学力向上のため、できることは何でもする」という意識が社員間で強まったのもプラスだったと思います。

またコーチングと言えば、今年の夏期講習では中萬学院(エドベック)様のMASIも活用し、事前面談や講習後の三者面談を徹底したことが功を奏したようです。さらに、様々なイベント開

催を通じてお客様の心をつかんできたのも善戦の要因でしょうね。今年は恒例の行事に加え、eisu倶楽部湯の山での「算数MAX特別授業&公開父母セミナー」(年四回)、「分数はかせ」といった新しいイベントにも取り組まれました。現場のスタッフは大変だったはずですが、こうした粘り強いブランド構築作業がじわじわと効果を発揮しているのではないかと思います。これらはnice、特に東京地区でも同様で、ハイブリッド指導システムの完成度を高める努力、そして大小様々なイベント実施を通じて着実に問合せ数・新規入学数に結びつけています。

— 高校部の東進も順調に展開されているそうですね。高校部(東進)は元来ハイ



eisu倶楽部 湯の山で行われた算数MAX 特別授業の様子

ブリッド型のシステムで運営していますが、その運営や合格指導のノウハウがよいよ熟成してきており、社員が自信をもって生徒に向かっているのが好結果に結びついているでしょう。またイベント関係でも、高校部は「東大・京大合格プロジェクト」を立ち上げ、部門をあげて様々なイベントや業務改善に取り組んでいます。それは学歴至上主義を謳いたいのでは決してなく、「高い目標をもって頑

張ることはとても素晴らしいことだ」という価値観を地域に浸透させたい、子どもたちの向上心を盛り上げていきたい、という純粋な思いをベースにしています。そういう姿勢が顧客の支持を集めているのでしょう。

高校部の今後の展開としては、2010年11月に名古屋駅西口に「名駅西口校」が、そして11年3月には三重県に「亀山駅前校」と「鶴方駅前校」が合わせて開校、高校部は二四校舎に拡大します。い



ずれも顧客のニーズにお応えする形で開校するもので、現場のスタッフも士気が高まっています。これからが楽しみです。えいすう総研が開発販売しているeドリルやパズル道場などについても順調な広がりを見せていると聞いています。

09年4月より開講した在宅学習コース「eドリル」は、試行錯誤を経てeisu groupでも収益の柱の一つとなりつつあります。今年度は通塾コースと併習させる「併習コース」の展開に力を入れており、日本各地で今秋から続々と本格稼働を始めています。ある

「全国小・中学生学力カップ2011」全国開催!

ではそのような現状を踏まえ、今後のeisu groupの方向性について教えてください。子どもたちの「学力」には、まず受験の得点力に直接関係するテクニカルな能力が含まれます。パズル道場で言う「見える学力」ですね。お客

様はまずはテクニカルな受験対応能力を求めてらっしゃいますし、それにお応えするのは私たち学習塾の当然の責務です。しかし真の学力の涵養には、もっと幅広い知的能力を育てることが大切になりま

程度継続的に受講すれば確実に成績が上がるツールです。し、経営的にもリスクが極小であるということがじわじわと理解され始めている結果でしょう。

「パズル道場・イルカMAX」は相変わらず高い人気を持っており、順調に全国の塾様で採用いただいていますね。これらをはじめ、えいすう総研で販売するツールは既存のコースとのハイブリッドが非常に容易で、効果も大きいことはeisu group内部でも実証されています。推奨の組み合わせなど興味がありましたら、ぜひご相談いただきたいですね。

様々な仮説をつくって検証を繰り返していく力、対象をイメージ化して多角的にアプローチする力、パズル道場ではこれらを「仮説思考力」や「イメージ化能力」と言っていますが、こうした知的能力の有無が、中学・高校・大学いずれの受験においても大きくものを言います。また真の学力の養成には、高い目標を自ら掲げて頑張るといって、向上心あるいは「高い志」を持つことが大きな意味を持ちます。eisu groupとしては、受験で直接通用するテクニカルな能力はもちろんのこと、そのベースになる知的能力の開発や向上、心の喚起といった部分でも積極的に提案をしていきたいと考えています。

その提案とは、具体的には何でしょうか。eisu groupでは06年より、ワールドカップにちなんだ知的能力の競技会「eisu学力

し、子どもたちの知的能力を互いに競い、優秀な生徒を称え合うという主旨で行われます。使用する問題も、通常の学力試験で問われるものから、パズル・クイズ形式の遊び心あふれるものまで、幅広い出題を用意しています。

知的能力を競い合うことは本来楽しいはずですが、実際「クイズ」などといった形式ですと、子どもたちは喜んで知的能力を競い合います。問題に挑むこと、そしてそれを解決することの喜びは、向上心・知的好奇心にもとづいた、人類普遍のものと言えると思います。

そこで11年、この「eisu学力カップ」を、「全国小・中学生学力カップ2011」として、日本全国規模で開催することを計画しています。開催予定日は11年6月19日、対象は小学四年生から中学三

年生まで、全国の塾様はじめ教育機関を会場とし、成績優秀な生徒を全国規模で表彰していく予定です。子どもたちの知識力と思考力を称揚し、知的能力の錬磨を称える。そうした向学心を高める雰囲気や日本全国に広がっていきたくて考えています。ぜひ志ある塾様のご参加をお願いいたしますね。

この「学力カップ」をはじめめとして、小学校低学年から大学受験まで一貫した指導ができるeisu groupのメリットを活かし、本来の授業以外の部分でも子どもたちの意欲を喚起していきける塾として成長していきたくですね。

子どもたちのためにできることを惜しみなく実践する

よくわかりました。そ

他の活動状況についてはどうですか。

今年からeisu groupの研修・保養施設「eisu倶楽部」を、eisu外部の方にも本格的にご案内する体制を整えました。山の自然を満喫する「湯の山 本館」「湯の山 心庵」「湯の山 新館」、海の自然を楽しめる「鳥羽 安楽島荘」、古都の雰囲気を感じる「京都 洛陽荘」と、ますますご利用される方が増えてきました。また10年8月には「箱根 強羅山荘」が開校し、業界の方々や社員の利用が始まっています。これらの場所を塾業界の皆様にとつての憩いの場として使っていただければ幸いです。

最後に、全国の業界の方へのメッセージをお願いいたします。厳しい環境の中、全国の塾様は日々懸命の努力を続けて



「eisu学力カップ2010」のポスター



「eisu学力カップ2010」の表彰式



eisu倶楽部 箱根 強羅山荘/©Shigeo Ogawa

おられることと思います。しかしこの少子化の時代、目の先の損得に縛られているだけでは成長は難しいのではないかと思います。特に従来は塾経営の柱であった高校受験生の絶対数は確実に減少していくわけですから、潜在するニーズを掘り起こしたり、新たなヴィジョンやメソッドを提案したりして、市場を活性化させるアクションを進んで仕掛けていく姿勢が必要になるでしょう。特に私たちは民間教育の一翼を担う者として、今後の日本の将来のためにも、子どもたちの持つ潜在的な力を引き出し育てる使命を負っています。今こそ本物の教育とは何か

子どもたちに明るい未来展望を描いていく。eisu groupはそうありたいと思っておりますし、全国の塾様とも、そういう志を共有していけたらと願っています。(10年9月29日、東京・成城のeisu group経営企画本部にて取材)

を真剣に考え、日々の授業やイベントを通じて

「2010 TOP INTERVIEW」は、塾業界の業界紙「月刊私塾界」2010年11月号に掲載されたものの抜粋です。eisu groupの企業姿勢をお伝えするものとしてまとめました。ご高覧ください。

知的能力開発と向上心の喚起が

本物の学力を育てる!